

叙唱 待降節 一

① 第一の来臨（イエスの人間としての誕生・受肉）

【キリストは人間のみじめさを帯びてこの世に来られたとき】

・「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」（マルコ 15・34）

・キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になりました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。（フィリピの信徒への手紙 2・6～8）

【父の定められた愛の計画を実現し】

・いまだかつて神を見た者はいない。父のふところにいる独り子である神、この方が神を示されたのである。（ヨハネ 1・18）

・神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。（ヨハネ 3・16）

【わたしたちに永遠の救いの道をお開きになりました】

・神が御子を世に遣わされたのは、世を裁くためではなく、御子によって世が救われるためである。（ヨハネ 3・17）

・わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して、わたしたちの罪を償ういけにえとして、御子をお遣わしになりました。（ヨハネの手紙① 7・10）

② 第二の来臨（キリストの再臨・救いの計画の完成・終末・最後の審判）

【栄光を帯びて再び来られるとき、いまわたしたちが信頼してひたすら待ち望んでいることは、すべてかなえられます】

・そのとき、人の子が大いなる力と栄光を帯びて雲に乗って来るのを、人々は見ると、そのとき、人の子は天使たちを遣わし、地の果てから天の果てまで、彼によって選ばれた人々を四方から呼び集める。(マルコ 13・26～27)

・そのとき、わたしは玉座から語りかける大きな声を聞いた。「見よ、神の幕屋が人の間にあつて、神が人と共に住み、人は神の民となる。神は自ら人と共にいて、その神となり、彼らの目の涙をことごとくぬぐい取ってくださる。もはや死はなく、もはや悲しみも嘆きも労苦もない。最初のものは過ぎ去ったからである。」(ヨハネの黙示録 21・3～4)